

# ジャグパル

JugPal

2007年8月5日 第39号



## インタビュー

【 CHIKI さん 】

今回はコンタクトジャグリングとアニメーションダンスとを組み合わせたユニークなパフォーマンスで楽しませてくれる「CHIKI」さんの登場です。

CHIKIさんのパフォーマンスの存在は昨年のTV番組「ストリートファイターズ」で初めて知り、「堀の外のジャグリング (6月15日/門仲天井ホール)」で生の演技を見ることができ、その不思議な演技に興味を持ち今回インタビューをお願いしました。



CHIKI さん

パフォーマーCHIKIの誕生までを教えてください。

学生の頃はマジックと演劇をやっていて、役者を目指した時期もあったけれど、高校生の時にはマジックの道に進もうと思い、卒業後はマジックショップでバイトをしたりして21, 22才の時にはマジックディーラーとして働いていました。

数年経って、もう少し身体を使って何か試したいと思っていた時に、池袋の路上で偶然に大道芸を見かけ、大道芸って何でもありなんだ！と強烈な印象を受け、それから路に立つようになったんです。

最初はマジックをやっていましたが、やがてコンタクトジャグリングを始め、1年半ほどしてからダンスも練習し始めて大道芸に取り入れるようになりました。大道芸歴はまだ2年半くらいです。

あの独特のパフォーマンスはどのようにして生まれたのでしょうか。

ジャグリングは最初ディアボロを練習したのですが、既に上手い人はたくさんいたことと、人がやっていることはなるべくやりたくなかったのが、メインとしてやっている人が少ないコンタクトジャグリングに注目しました。

また演劇でマイムを学んでいたのが、技術的な基礎は身につけていて、空間固定(というテクニック)はコンタクトジャグリングとマイムに共通していることに気づき、一緒に組み合わせたら面白いことができそうだったんです。

どのようにして作品を作るのでしょうか。

アニメーションダンスは、ストロボ(カクカクとした動き)といって身体の部分部分を独立して動かすのが特徴です。昔の粘土アニメとかを見るような感じかな。

言い換えると、普通に考えたらあり得ないような動きを、生の身体を使って表現するのがアニメーションダンスで、歩くしぐさでも不自然な動きをします。

最近の高性能のロボットの動きはより人間に近づけようとしているけれど、僕らは逆に古いロボットに近づけようとしていて、例えば遊園地のお化け屋敷のお化けのぎくしゃくした動きから、どこの軸が固定されて動いているのか研究したり、ロボットバトルの動きなんかは勉強になりますね。とにかくいろいろなロボットを見ます。

映像を見て自分がロボットに見えれば他の人にもそう見えるんじゃないかと、自分自身の動きをビデオ撮影したり、あと気にかけているのは、身体が普通あり得ない動きをした時の『気持ち悪さ』を表現上追求します。

本当にロボットがそんな動きするのかと言ったらそんなことはない訳で、とにかく僕が演じるのは自分が作り上げた架空のロボットなんです。

ジャグリングに関して言えば、人に教わることはほとんど無く、DVDとかネット上の動画で情報を収集して技を独習して、つなぎ方も自分で考えています。

まだまだ両方の演技がしっかりと合わせられているとは思っていないし、でもマニアックになり過ぎて一般の人に分かりづらくなれないようには注意しています。分かりやすくダンスをやりつつジャグリングをするというのはとても難しいです。

「堀の外のジャグリング」が初めての舞台演技だったそうですね。

舞台でのジャグリングというのは見たことがなかったので、いざ自分がやるとなるとどうすればいいのか全く見当がつかなかったです。

舞台演技では雰囲気を作るように照明、音楽、あるいは観客との距離を考え、最後までその雰囲気を保ち続けるようにすごく悩みました。

路上ではずっと喋り続けて笑いをとって、真面目に見せる部分と笑いをとる部分のメリハリをつけて、お客さんの反応によってその場で対応していくので、路上の方が慣れているせいもあってやりやすいけれど、いろいろ経験できて新しい発見もあるので舞台も今後は積極的に出てみようと思います。



ストリート(大道芸)へのこだわりがあるそうですね。

正直マジックをやっている時は辛かったです。特にレストランでのテーブルホッピングでは、(マジックを)見たくない人やどうでもいいと思っている人のところにも行って、役作りをして演技をしなければなりませんでした。

一方大道芸では見たくない人は帰るし、自分のキャラをそのまま出せるので今は面白くてしょうがないです。

舞台でもストリートでも、お客さんに何も伝わらないとただの自己満足になってしまうから、感動できるもの、伝えられるもの、何か残せるものがあるといいと思っています。

サイトの掲示板で、「仕事で嫌なことがあったけれど忘れられました」なんて書き込みがあると自分の伝えたいことが伝わったんだなあと素直に嬉しいし、そういう風に思ってくれるお客さんが増えてきて欲しいし、増やせるようにしたいです。

パフォーマンスの時間は喜んでもらって、お客さんの心の中に何か残ってくれればと思っているし、この気持ちはマジックを始めた時もそうだったし、これからも忘れないでやっていきます。

パフォーマンスを見て何か伝えられて、次に見た時には少し変化があって、いつ見ても楽しい気分になって、



ありがとう！

良かったよ！

また見に来ます！

なんてことを握手しながら言われたりすると、とても嬉しいし僕自身も励みになります。

それと最近の世の中って、知らない人は誰も信用できずに、他人同士のコミュニケーションが不足して、知らない者同士でワイワイ・ガヤガヤってないじゃないですか。

一人でも見に来られる大道芸、一人で見に来て、みんなで楽しんで、その場にいたお客さん同士が知り合いになって、みんなで集まって、みんなで盛り上がって…そんな空間を作りたいんです。

これからやりたいことは何ですか。

トシをとっても、そう例えば40才過ぎても大道芸をやり続けていきたいですね。

何かターニングポイントがなければこのままやり続けているだろうけれど、大道芸があって自分の人生がいろいろ変わってきたことを考えると、今までもそうだったようにこれからもきっと何かあると思し、だから分からないというのが正直なところかな。何故なら数年前には自分がこうなるとは予想もつかなかった訳だし。

パフォーマンスは、当分は今のスタイル(コンタクトジャグリングとアニメーションダンス)でやっていくつもりです。

ダンスとジャグリングの兼ね合いは難しく、マニアックなことを取り入れてもつまらないし、あくまで見ている人に分かりやすく、皆に楽しんでもらって飽きさせない方向にもっていきます。

まだまだ試したいことはあるし、でも技術は技術で高めて、できれば出さないくらいの方が丁度良いと思っています。

またコンタクトジャグリングを2人でやると絶対綺麗だと思うんです。

僕のようにコンタクトジャグリングとアニメーションダンスをやる人がいて、もし同じ考え方を持っていて、一緒に組めれば新しい作品が生まれるだろうから是非やってみたいですね。

Performer CHIKI オフィシャルサイト <<http://chiki.harug.s/>>

[安部 保範]





桂歌丸・三遊亭楽太郎二人会(5月3日/麻生市民会館大ホール)

桂歌丸さんは「井戸の茶碗」、三遊亭楽太郎さんは「禁酒番屋」。言わずと知れた人気者のお二人で、人情噺と滑稽噺の組み合わせも妙であり、もっともっと聴いていたかった。

寺井尚子・ジェラシーツアー2007(5月19日/品川プリンス ステラボウル)

ツアー(寺井尚子カルテット)の最終公演日。お喋りはほぼ演奏曲名の紹介のみで、休憩20分を除く2時間を目一杯演奏し続ける彼女の姿はまさしくアスリート。

叙情的な曲から情熱的な曲まで幅広くこなしますが、やはり安定した抜群の技術により真夏を感じさせる熱い熱い演奏には、聴く方も同期して熱くなってしまいます。

三越落語会(5月25日/三越劇場)

桂小南治さん「鼻ねじ」、古今亭志ん輔さん「宿屋の富」、柳家権太楼さん「青菜」、古今亭圓菊さん「明烏」、桂歌丸さん「厩火事」。うん～っと、こうやって書いていて印象に残っているのはやはり歌丸さんですね。痩せこけてはいるけれど(失礼!）、脂ののりきった噺は聴かせます。

JUMP(6月8日/新宿シアターアプル)

カンフーを取り入れた韓国の肉体系コメディパフォーマンス。それぞれクセのある5人からなる武術一家に泥棒二人組が侵入して、家族に見つかってしまい、そこから始まるバトル。セリフは無く、見せる武術をふんだんに取り入れてスピーディーに面白可笑しく展開する様は、ドリフターズの「八時だよ、全員集合!」のコントを思い出してしまいました。単純に楽しめました。

韓国ではJUMPといいINANTAといい明らかに世界を意識して作品が作られ、既に幾つかのグループが各国で公演しているようですが、こういった老若男女、誰でも分かりやすいノンバーバル・身体パフォーマンスはこれからも増えていくのかな。

堀の外のジャグリング(6月15日/門仲天井ホール)

出演者は、オオツカタカシさん、CHIKIさん、ジャグラーテルさん、矢熊進之助さん、目黒陽介、ひいろさん、チクリノさん。去年に引き続き二回目の公演。演者には、10分以上の作品を演じ、一種類の道具しか使わないという制限が課せられます。各々長い時間をかけて仕上げてきたであろう作品のひとつひとつにメッセージを感じます。

目黒さんの「Ombre」は印象的でした。サーカスで空中ブランコの際にフライヤーとキャッチャーの影がテントの内側に映し出される、あの情景が好きなのですが、Ombreではその情景がジャグリングの中でも彷彿されました。ただ今ひとつ光と影のコントラストが上手く表現しきれていなかったのが残念でした。

フルキャスト筋肉(マッスル)ミュージカル(6月16日/渋谷マッスルシアター)

最近はこのアスリートの身体能力を見世物とする、肉体そのものを前面に出した直接的なパフォーマンスが増えてきましたがちょい食傷気味です。

でもモンスターボックスは実物を見ると迫力あるし、マウンテンバイクはスリリングで思わず叫んでしまうし、水槽でのシンクロは優雅で美しかった。それに我が「王健」さんモラートや縄跳びでソロ演技を、獅子舞では華麗な踊りを見せてくれたり、演舞の時には出演者の真ん中にいて嬉しかった。きっと最年長だろうに凄い。

えっと、公演の中で演者数十人が取り囲む中、ステージ上でボールジャグリングが始まりました。ビハインド系の技を取り入れた4ボールから5ボール、そして7ボールと何ら間もなくタメもなく30秒ほどで淡々とこなしていました。誰っ!?ただ者ではないと思ったら進藤一宏さんでした。



映画「プレステージ」(6月22日/日比谷スカラ座)

マジックが好きだから足を運んだだけで、面白さは期待していなかったけれど、予想以上につまらなかった。だいたい金曜のアフター5にも関わらず、654席のキャパで観客が数十人ですもの！でも前売り券におまけとして付いていたマジックランプ(ストリップパーデッキ)はそれなりのものだった。ところでデヴィッド・ボウイって何役で出ていたんだ？

ユーミンスペクラクル シャングリラ (7月4日/横浜アリーナ)

今回を含むシャングリラの三作品の中では、今回のシャングリラが一番、曲とサーカスとがマッチしているような気がしました。が、毎回のことですが、音楽、サーカス、シンクロ・・・とあまりにも盛りだくさんで、一体舞台の上で何が起きているのか一回見ただけでは分からずじまいです。

それに私にはもうひとつお目当てがありまして・・・それは大のお気に入りのパーカショニストの小野かほりさん！いやあ～可愛くて元気で、もち演奏も聴かせてくれますしシャングリラには欠かせないアーティストです。歌を聴いて、サーカスを見て、シンクロを見て、かほりちゃんを応援して・・・とかなり忙しすぎる公演で、また足を運ばなくては・・・

ユーミンスペクラクル シャングリラ (7月7日/横浜アリーナ)

・・・という訳で二回目。だいぶ落ち着いて会場にも溶け込んでステージをじっくりと眺められるようになりました。で改めて気づいたのは、サーカスとシンクロの双方の演技の素晴らしいこと！まさに現在のサーカス界、シンクロ界の頂点の演技が目の前で繰り広げられています。どのような状況でもあれだけの演技をこなしてしまうアーティストという超人に今さらながら驚いています。

またいつもながらに感心するのは、シャングリラ名物のフィナーレでの出し物(?)。ユーミンが演者一人一人の名前を呼んで紹介するのですが、50人位はいるであろうロシア人アーティストの名前をそらでよどみなく紹介していく様には何だかウルウルしてしまいます。(清水ミチコの公演では、彼女がこれをパロディとしてロシアの歴代の大統領の名前を口にしています)

映画「魔笛」(7月25日/日比谷シャンテ シネ)

モーツァルト晩年の最高傑作「魔笛」の映画化。ちなみにこういったオペラシネマってというのは結構世の中に出ているんですねえ～、私は初めて見ました。序曲からフィナーレまでの全22曲をあますところなく聴かせてくれますが、2時間半近いので少々お尻がムズ痒い・・・。舞台では絶対に表現不可能な映像の世界に身をゆだねて聴くオペラも趣向が変わっていいかも。例えば第2幕の「夜の女王」の怒り狂った感情をCGを交えた映像で表現し、その映像を背景に聴くあの有名なアリアはスリリングでした。

ところで「魔笛」はイングマール・ベルイマン監督が1975年に映画化したそうですが、へえ～あのベルイマン監督が、と思っていたら7月30日には突然の訃報。ご冥福をお祈りいたします。

国立ポリショイサーカス(7月29日/横浜文化体育館)

「来日50周年記念」だそうです。恐れ入ります。私は毎年見始めるようになって、たかだか十数年ですから。今回の公演は若いアーティストが多かったような気がします。ルーティンに見せ場が無く盛り上がり欠けたり、新しいアイデアを盛り込んでの演出も中途半端だったり。

でも初っ端に登場したジャグラーはいかにもサーカスアーティストといった演技を見せてくれました。サドルの無いタイヤにペダルが付いた一輪車を漕ぎながらの7ボールジャグリング、一輪車(タイヤ)をひとつ前方に転がし、それを別の一輪車(タイヤ)に乗りながら追いかけて、ジャンプして飛び移り、それ(タイヤからタイヤへのジャンプ)を何回も繰り返す演技には拍手喝采！



by いいづかちささん



# イベント情報

## 【プレジャーBのコメディークラウンサーカス】

5人のクラウンによるコメディークラウンサーカス。ジャグリングあり、パントマイムあり、マジックあり、そしてもちろんわくわく、ドキドキで笑いがいっぱいこの作品。プレジャーBの魅力ギュッと詰め込んだ80分。

(プレジャーBのサイトより引用)

2007年8月14日(火)	2007年8月16日(木)
鹿児島市民文化ホール 第2ホール	福岡市立少年科学文化会館
昼の部 14時 開演	昼の部 14時 開演
夜の部 19時 開演	夜の部 19時 開演
開場は開演の30分前	開場は開演の30分前



全席自由 / 前売 ¥2,000 / 当日 ¥2,500 / (大人子供共通・3才以上有料)

(問い合わせ先)

(有)プレジャー企画

TEL <052-483-7779>

FAX <052-483-7774>

Email <w-take@pleasure-p.co.jp>

WebSite <[http://www.pleasure-p.co.jp/plea\\_b/index.html](http://www.pleasure-p.co.jp/plea_b/index.html)>

## 編集後記

先日、大学の時に入っていたマジックサークルの同期会があり、友人の息子さんが同じ大学の同じマジックサークルに入ったということで、その息子さんも参加して最新のマジックを披露してくれました。たまげた！30年前に我々が習っていたテクニックは残っているには残っているけれど、それ以上の驚くべき超絶技法が開発されていて、入部わずか数ヶ月の若者が平然としてやってのけちゃう、その現実。それはジャグリングの世界にもあてはまりそうです。

また友人の息子さんはテクニックの多くはインターネットの動画サイトなどで見つけては習得していくようで、その手法もジャグパルのインタビューでも感じていましたが、若い世代のジャグラーにも共通することで、何でも(情報が)手に入るネットの影響力のもの凄さを再度実感しました。

確かに動画サイトにはマジックやジャグリングの技法紹介の動画などが溢れていますが、当たり前ですがそれらは全てカメラを意識したものです。つまり真正面から見られていることが全てであり、横から見られたらどうかということに意識はありません。息子さんから見せてもらった超絶技巧の中にはほとんど真正面からしか通用しないものもあり、いうならばカメラ用トリック(カメラ自体が観客)といった感じです。

これもテレビの影響でしょうか。観客はあくまで人間でありカメラではありません。観客もカメラが切り取って送られてくる映像がパフォーマンスの全てではないことを知らなければなりません。例えば全てが全てそうではありませんが、テレビのマジック番組で披露される演技は視聴者を意識したのではなく、カメラを相手に撮影されています(カメラトリックという意味ではありません)。ここではカメラが観客なのです。映像にまやかされてはなりません。(こんなことを思うのは最近のマジック番組の作りのひどさからです。カメラのとらえないところでは何をしてもいいみたいな作り。)

でもそのうち映像の世界でのみ演技するパフォーマンスなんてのが出てくるかも・・・

ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業、団体あるいはパフォーマンス個人に関係しているものではありません。

編集発行人:安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)

Webサイト: JugPal <<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

見世物広場 <<http://www.chansuke.net/>>

E-mail: misc@chansuke.net